

ご挨拶にかえて—2013 年度をふりかえって

特定非営利活動法人 市民公益活動パートナーズ 代表理事 古山 郁

東日本大震災・福島第一原発事故から来年 3 月でまもなく 4 年を迎えます。未だ仮設・借上げ住宅でご不自由な暮らしを強いられているみなさまに心よりお見舞いを申し上げます。

また、避難先での自宅再建やふるさとへの転居など、新たな生活をスタートされた方も増えているようです。みなさまのこれからの暮らしが幸多いことをお祈り申し上げます。

この大災害が起こった 2011 年 3 月(2010 年度)から、パートナーズは一貫して「いつもの暮らしに戻ろう」を合言葉に、自治体や助成金提供団体等、さまざまな組織からの支援を受け、継続した復興支援、特に生活再建やコミュニティ支援を中心に取り組んでまいりました。

同時に、2013 年度は、NPO の自立・自律を目指す中間支援組織として、組織基盤強化を本格的に図ることを目指し、年間を通した取り組みを行ってきました。おかげさまで、今期末 9 月 16 日に仮認定 NPO 法人を取得することが出来ました。

復興支援活動に関しては、復興公営住宅への入居も始まり、福島の復興・地域再生は今後、多様なニーズに対するよりきめ細やかな支援が求められると推測します。市民活動団体を支える中間支援としての社会的な役割を果たしていく所存ですので、会員のみなさまには変わらぬ御支援、御協力を何卒お願い申し上げます。

2013 年度の市民公益活動パートナーズについて

【運営について】

1. 会員

2014 年 9 月 30 日時点で 21 名 ※2011 年度末 13 名→2012 年度末 18 名→2013 年度末 20 名

2. 寄付

活動全般に対する寄付、及び東日本大震災・原発事故からの復興支援活動・生活再建支援活動への寄付を約 290 万円頂きました。特に、『おたがいさま新聞』紙上に広告を掲載*して以降、新聞発行に対する支援が増えました。 *2014 年 6 月号 通巻 24 号

3. ボランティア

2013 年度も 2014 年 4 月末に福島学院大学及び桜の聖母短期大学に学生ボランティア募集を行いました。学院大は無し、桜の聖母短大は 2 名、3 年間参加頂いている社会人 1 名を加え、登録は 3 名です。

なお、これまで 3 ヶ年に亘り、ボランティア募集説明会に協力頂いた学院大では、同大学に寄せられるボランティア募集の急増を理由に、説明会は取り止めになっています。

4. 事務局スタッフ

2013 年度 9 月末時点での有給常勤スタッフ 1 名。有給非常勤スタッフは 3 名。

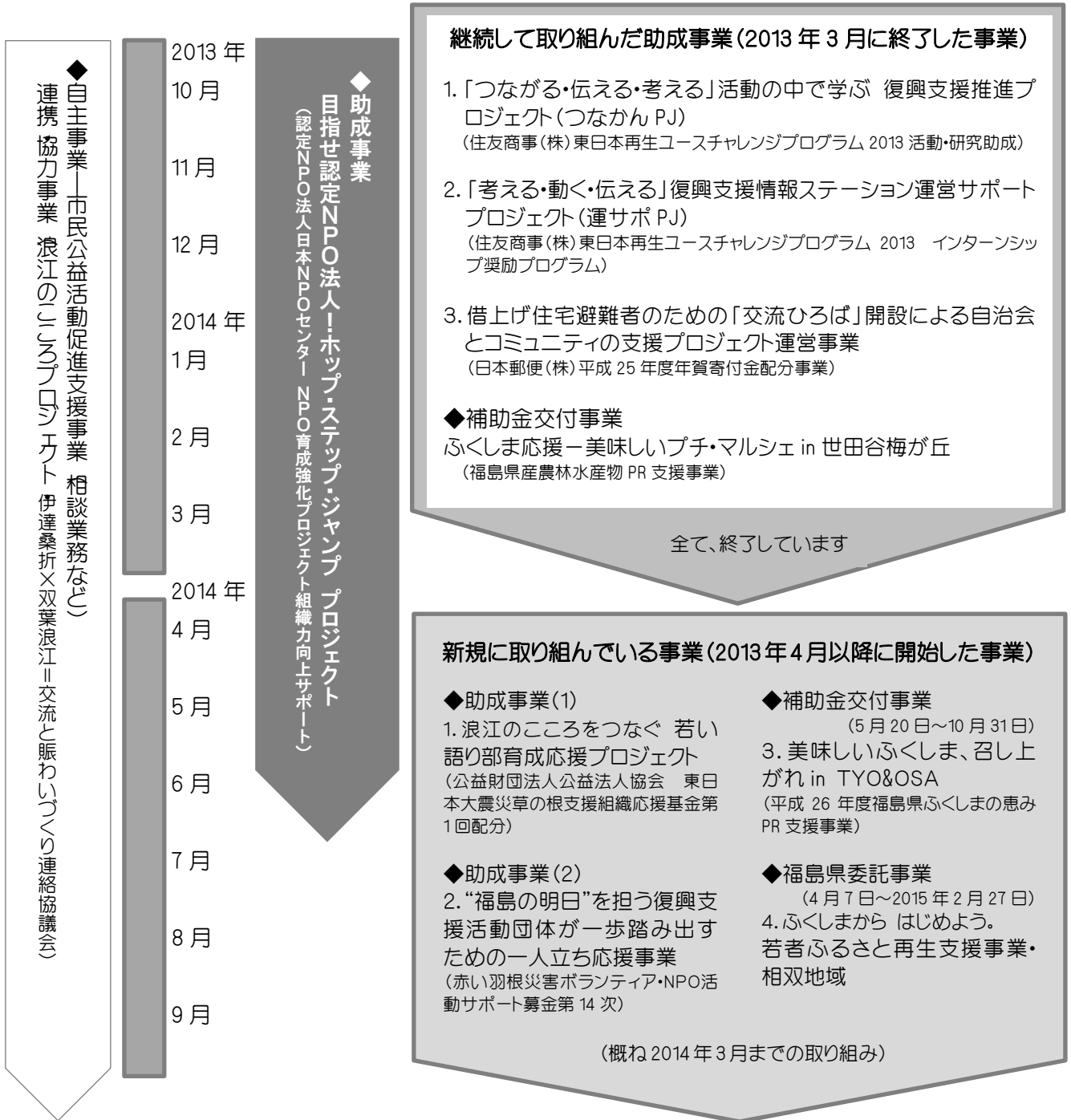
加えて県委託事業(若者ふるさと再生支援事業)に従事する学生スタッフ 3 名を加えて 7 名です。(2012 年度より 2 名減)

【2013 年度事業について】

下記の図は、時系列に 2013 年度事業を示したものです。

自主事業及び連携・協力事業と、一部の助成事業は年度 1 年間を通して取り組みました。

また、助成・補助金交付事業は、上半期(2014 年 3 月末)に終了した事業と、下半期(2014 年 4 月)から新たに取り組む事業とに概ね分かれています。



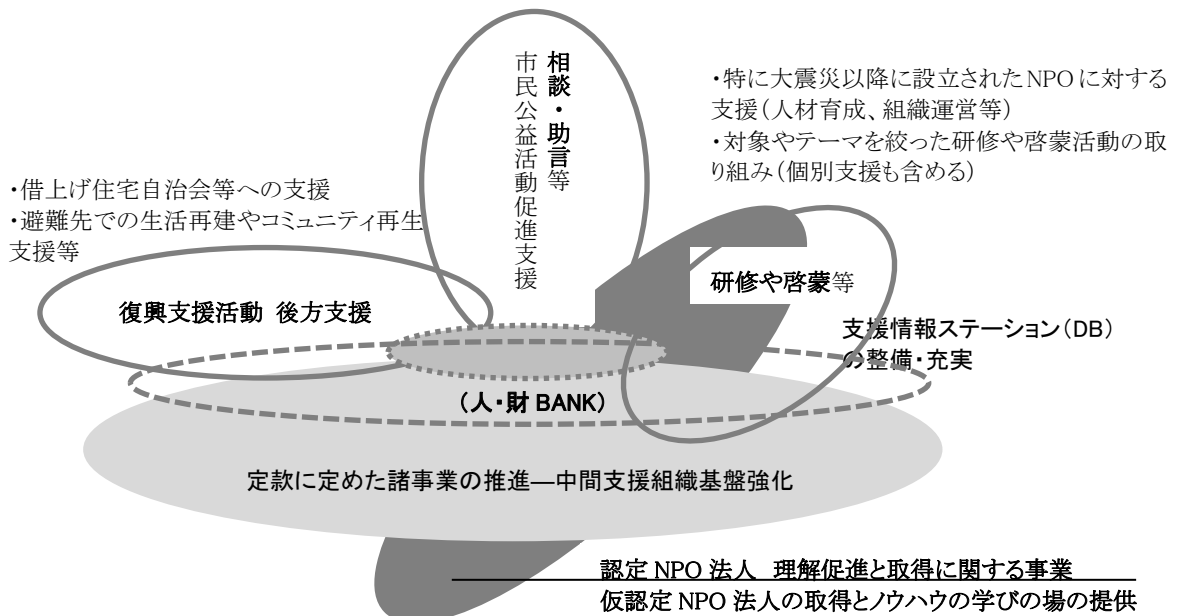
事業の取り組みについて

2013 年度事業計画では、NPO 中間支援として組織基盤強化に向けた取組みと、福島県の復興支援活動及び新たな地域づくりに向けた多様なセクターとの連携協力による課題解決の場と仕組みづくりを方針に掲げ、具体的な活動として 3 本の柱を立てました。

1. 市民公益活動促進支援(継続・発展)
2. 組織基盤強化のための取組み(本格的な取組み)
3. 後方支援活動を中心に据えた復興支援活動(継続)

特に 2013 年 10 月～2014 年 6 月までの 9 ヶ月間、認定 NPO 法人日本 NPO センターの助成を受け、仮認定 NPO 法人取得(2014 年 9 月 16 日取得)と、申請に伴う会計処理事務や法令遵守、情報公開等を適切に行う事務局機能の向上、寄付金募集等による財源確保に関する強化等を行いました。同時に、認定 NPO 法人を目指す福島県内の NPO 法人にも呼びかけ、このプロセスを通して学んだ書類申請のノウハウ、寄付商品の企画や販売戦略、組織基盤強化策など、学びの場を共有しました。

また、NPO 法人や市民公益活動促進支援のための相談・助言等の取組みはもちろん、浜通りからの避難者を主な対象に、「いつもの暮らしに戻ろう—生活再建支援」を中心に据えた復興支援活動は、2013 年度も一年を通じて積極的に進めました。



- (1)市民公益活動及び組織運営全般に係る相談・助言・研修等に関する事業
- (2)市民公益活動の普及啓発に係る広報、人・財登録及び情報提供等に関する事業
- (3)市民公益活動に係る会計基準及び評価に関する普及啓発・調査研究事業

- (4)監査・監事業務の啓蒙事業
- (5)前各号に係る協働の企画提案・ワークショップの企画運営・情報の収集及び発信に関する事業
- (6)その他、第 3 条の目的を達成するために必要な事業

(2012 年度通常総会資料をアレンジ)

2013年度(2013年10月1日～2014年9月30日)を通して取り組んだ事業

＜自主事業＞市民公益活動促進支援

1. 市民公益活動及び NPO 相談

目的:2011年2月の法人設立以来、市民活動団体の立ち上げやNPO法人設立相談をはじめ、助成金情報の提供や申請書へのアドバイス、NPO法人の運営など、日頃のNPO活動に伴う様々な問合せや相談に対応しています。



同時に、この取り組みを通じて、中間支援組織としてのスキルアップに努め、よりの確な業務遂行を目指しています。

★今年度期首(2013年10月)～2014年6月迄は、自主事業として取り組みました。

★2014年8月29日に(社福)中央共同募金会 赤い羽根「災害ボランティア・NPO サポート募金」助成事業が採択され、約2ヶ月事業実績を遡り、2014年7月～2015年7月迄のNPO支援活動に対して支援を受けます。

2. ふくしま復興塾

塾全体の見直しを行う必要がありましたが、取り組みまでには至りませんでした。

一方、これに代わるような場づくりとして、期首(2013年10月)から2014年6月までの9ヶ月間、認定NPO法人取得のための研修会(9回)を開催し、県内の認定NPO取得を考えるNPO法人を中心に、組織基盤強化の観点を盛り込んだ学びの場を提案、実施しました。

<連携・協力事業>

1. 「浪江のこころ」プロジェクトへの取材協力(浪江町広報誌・特集「浪江のこころ通信」原稿制作)

目的と内容: 双葉郡浪江町「広報なみえ」の特集ページ「浪江のこころ通信」は、東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会(仙台市/編集責任者:高崎経済大学櫻井研究室)を中心として全国のNPOや大学、復興支援員等が協力・連携し取り組んでいます。福島県内外に避難している浪江町民を訪ね、2011年3月の災害発生当時の避難の様子や今の暮らし、浪江町や故郷の人たちへの思い等を取材し、記事にします。

当法人では、福島県の窓口を担当するNPO法人寺子屋方丈舎(会津若松市)との協力体制のもと、県北地域(伊達郡、福島市、二本松市、安達郡、本宮市)に避難する浪江町民への取材を第29号～第40号までの取材(12回)を行いました。(月平均1～2名程度)

さらに、昨年度7月からスタートした震災直後に取材した方を再び訪ねる「再会・浪江のこころ」シリーズ、そして2014年9月からは「ふるさとの記憶」をテーマにグループインタビューが始まりました。当法人はその第1号として、「コスモス手づくりの会」のメンバー4名に取材を行い、第40号(2014年10月1日号)に掲載されました。



成果:2011年7月から取材活動を積み重ねて来たことにより(通算38回)、浪江町民の当法人に対する認知度も上がり、『おたがいさま新聞』との相乗効果を感じることでも度々です。また、取材範囲が県北地域全域であるため、被取材者からの話を通して、日頃支援活動を行う福島市周辺や伊達郡桑折町以外の地域課題や支援ニーズを知ることが出来ます。

報告(取材以外の活動):

・2013年10月12日～13日

「浪江のこころプロジェクト」取材者情報交換会/郡山市市民交流プラザ、浪江町(視察)

・2014年1月13日 町民・取材者座談会(Co.櫻井常矢先生、5名)
/ホテル福島グリーンパレス桂の間

・『浪江のこころ通信—震災後3年間の記録—』2014年3月22日発行 全町民、取材等協力関係者に配布



ふりかえり:取材活動を通じてコミュニケーションし始めた人たちを関連事業のキーパーソンにしたり、『おたがいさま新聞』の取材対象にしたりしながら、業務間の連携に活かしています。

2. (一社)ふくしま連携復興センター「3 地域仮設住宅アセスメント 2013 年調査」への協力

目的:岩手、宮城、福島の3県の連携復興センターが連携し取組んだ調査事業(実施主体:ダイバーシティ研究所)。東日本大震災から3年が経ち、応急仮設住宅入居者の生活の状況を調査し、その生活課題を明らかにし、改善につなげることを目指すためのものでした。

成果とふりかえり:伊達郡桑折町・桑折駅前応急仮設住宅自治会長に、配布の際の全面的な協力を依頼しました。桑折町と浪江町を合わせた全世帯(約210世帯)に対し、調査票を配布し、個別に投函をお願いしました。福島全体の回収率は約30%であり、「中でも桑折は回答率が良かった」との評価を聞きました。

3. 伊達桑折×双葉浪江=交流と賑わいづくり連絡協議会—事務局業務と事業の取組み

※2010年度福島県補助金交付事業*から取り組み始め、4期目の今年度も継続して協議会事務局と事業に取り組んでいます。

『おたがいさま新聞』等を通じた情報提供やコミュニティサービス・ビジネス(CSB)支援、生活再建・地域コミュニティ支援を「いつもの暮らしに戻ろう」PJとして展開しています。

<助成事業>

認定 NPO 法人日本 NPO センター 市民活動団体(NPO)育成強化プロジェクト 組織力向上サポート
目指せ 認定 NPO 法人! ホップ・ステップ・ジャンプ プロジェクト

目的:中間支援組織として NPO や復興支援活動団体を長期に亘って支援できるよう、仮認定~認定 NPO 法人となる制度を自ら活用しながら、段階的に(3つのステップ)組織基盤強化事業に取り組めます。

第1と第2ステップの実施を今回の助成事業として提案しました。助成終了後も取組みを継続し、第3ステップでは2017年3月末の認定 NPO 法人取得を目指します。

◆事業実施期間:2013年10月1日~2014年6月30日

◆事業予算:3,569,980円/助成金応募額 3,373,500円

→決算額 3,361,627円(助成金決定額 3,284,147円)

◆主な事業内容と目標

1. 第1ステップ(ホップ):一気に獲るぞ!仮認定

①アドバイザーによるコンサルティング(勉強会前日)

と「仮認定 NPO 獲得勉強会(4回)」の実施

アドバイザー兼講師:仮認定 NPO 法人新潟 NPO 協会

代表理事 金子洋二さん



- ②実践マニュアル『認定 NPO 法人への道』の制作、HP へのアップ
- ③組織運営パワーアップ研修会「認定 NPO ゼミナール(9 回/3 コース×各 3 回)」の実施

2. 第 2 ステップ(ステップ): 広く集める寄付金倍々計画

- ①仮認定期間中(3 年間)以内に、PST 絶対基準値がクリアできる寄付を募ること
寄付金募集広報ツールの作成と配布→NPO 相談者等への呼びかけ→指定寄付
- ②寄付システム導入に関する学び→当法人独自の寄付システムの構築

※第 3 ステップ(ジャンプ): 本認定を目指して飛躍!

ー第 1 ステップ、第 2 ステップから継続し、2016 年下半期まで取り組む予定です

- ・PST 絶対値基準を継続的に満たすことのできる環境の構築
- ・クラウドファンディングによる寄付商品の開発
- ・認定 NPO 法人への移行、等

実績:

◇勉強会 講師:NPO 法人(仮認定 NPO 法人)新潟 NPO 協会 代表理事 金子洋二さん

勉強会	開催日	参加人数		プログラム
第1回	2013年11月30日	8名	役員5名、事務局2名、外部(編集)1名	仮認定NPO法人への道
第2回	2014年1月10日	5名	役員4名、事務局1名	寄付が集まるNPOとは?
第3回	2014年3月8日	4名	役員3名、事務局1名	安定した寄付金収入のための作戦会議
第4回	2014年5月10日	5名	役員4名、事務局1名	超えたらどうなる? 認定へのハードル

◇研修会

研修会 認定NPOゼミナール	2014年開催日	参加人数	プログラム	講師	
Aコース めざせ認定NPO法人! 申請コース	第1回	3月23日	5名	徹底研究! 認定NPO法人制度	企画マネジメント研究会 代表 松田 英明さん
	第2回	4月6日	6名	認定取得のための課題攻略	
	第3回	6月8日	6名	認定申請手続きの実際・認定NPO法人取得 団体に聞く	
Bコース 寄付集めの達人になる コース	第1回	4月26日	12名	寄付集めの基本と事例から学ぶ「寄付」って 何?	NPO法人新潟NPO協会 代表理事 金子洋二さん NPO法人新潟NPO協会 事務局次長 田村良太さん
	第2回	5月11日	8名	どこにも負けない「寄付商品」をつくろう	NPO法人まちづくり学校 代表理事 大滝聡さん NPO法人新潟NPO協会 代表理事 金子洋二さん
	第3回	6月1日	8名	本当にお金が集まるプランづくり	NPO法人新潟NPO協会 代表理事 金子洋二さん NPO法人まちづくり学校 代表理事 大滝聡さん
Cコース 共感を育て支援を増やす コース	第1回	4月12日	5名	共感と「ひと」—顧客戦略のススメ	まちかど公共研究所 代表 工藤寛之さん
	第2回	4月19日	4名	共感と「お金」—資金計画のススメ	まちかど公共研究所 代表 工藤寛之さん
	第3回	5月18日	9名	共感と「コミュニケーション」—広報戦略の ススメ	NPO法人CANPANセンター 常務理事 山田泰久さん

振り返り:

- ・当法人にとって…認定 NPO 法人の取得を目指すことにより、組織運営の強化と適正化を図ることが出来ることを体験し、実感しました。引き続き、事務局体制の強化に努めます。
- ・県内 NPO 法人にとって…社会的信頼と財源確保のためには、認定 NPO 法人の情報公開や寄付商品の開発について多面的に学ぶ場が必要であり、中間支援として相談や研修等、支援サービスを整える必要があります。

<助成事業>

1. 住友商事(株)東日本再生コースチャレンジ・プログラム 2013 活動・研究助成

「つながる・伝える・考える」活動の中で学ぶ復興支援推進プロジェクト(通称 つなかんPJ)

目的:

○“学生力”のアップ

―震災直後の体験をしていない若い世代へ引き継ぐ、組織と活動の仕組みづくりを目指す

福島大学災害ボランティアセンター(以下、福大災ボラ)の主要メンバーを中心とした学生たちが、ボランティア・コーディネイトに対するマネジメント力や組織基盤強化のための実践的な学びを通して、次世代の福大災ボラのパワーアップを図ります。

○調査事業の追加と継続―より充実した DB 化を目指す

「支援情報ステーション」の充実を図るために、県南や会津地方、情報が少ない県外地域(宮城県仙南地域や仙台市)の支援活動情報の収集と、2012 年度分の情報整理を行い、精度の高いデータベース化に努めます。

◆事業実施期間:2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日

◆事業予算:300 万円 →決算額 2,827,932 円(助成元返戻額 172,068 円)

◆事業のための人件費確保:学生 3 名(月10 日程度)・パートナーズ 1 名(週 1 回程度)

◆主な事業内容と目標

(1)「活動の中で学ぶ」(福大災ボラの後継者等人材育成)

・「学生ボランティア・コーディネーター実践育成研修(以下、学生 V.Co 研修)」

NPO 事務局や活動現場での研修を通して、コーディネイト力や支援プログラムの企画力などのスキルを磨くこと(5 団体×2 回程度を目指す)

・組織として備えておくべき知識やスキルを学ぶこと(会計や事業報告、プランニングや助成金申請等内部研修の実施)

(2)「つながる・伝える・考える」(調査活動の追加・継続)

・福島県県南及び会津地域、宮城県仙南地域の調査(本調査 20 団体)

・2012 年度に DB 化した 177 団体*の情報更新を図ること

・支援活動団体の受入窓口である仮設及び借上げ住宅自治会への取材活動等を通じ、変化する多様な支援ニーズを把握すること

(3)「「伝える・語り部になる」(「3.11 福大災ボラ×避難の皆さん再開の集い」)

双葉郡からの避難者や復興支援・NPO 活動団体等を対象に、福大災ボラのこれからの支援活動へ向けた交流と意見交換会として、2014 年 2～3 月に開催すること

実績:

1.「活動の中で学ぶ」

①学生 V.Co 実践育成研修(活動現場)…25 回

当法人 9 回・県内 NP010 回・県外 NP0 6 回

②組織基盤強化のための基礎講座 5 回

会計 2 回(2 日間)・助成金申請・プレゼンテーション・

何でも相談会/講師:松田英明さん(企画マネジメント研究会 代表)



2.「つながる・伝える・考える」

調査活動の追加・継続:福島県内(県内、会津地域)と宮城県仙南地域等 20 団体の新たな調査及びデータ作成。(復興支援情報ステーションへのアップ)

3.「伝える・語り部になる」 交流会…2014 年 2 月 15 日「学生×NP0 ぶっちゃけ座談会」福島市市民会館にて開催

振り返り:

・つなかん PJ メンバーと福大災ボラの学生たちが、活動参加人数は少なかったものの、県内外の支援団体等の活動現場で頻りに活動し、これまで取り組んできた保養キャンプや子どもの遊びのプログラムなどを「磨く」ことが出来たのではないかと考えます。

・PJ メンバーを対象にした研修(講座)では、災ボラの会計事務処理に対する関心が特に高く、卒業後に業務を引き継ぐスタッフたちも一緒に受講しました。しかし、その後の会計管理はどのようになっているか、気にかかります。(年度を超えてノウハウを継承していくことは、学生団体にとってなかなか難しいように見受けれます)

2. 住友商事(株)東日本再生コースチャレンジ・プログラム 2013 インターンシップ奨励プログラム

「考える・動く・伝える」復興支援情報ステーション運営サポートプロジェクト(通称 運サポPJ)
目的:コース(主に大学生、大学院生等)が、被災地で活動する NP0 で長期に亘るインターン活動を行い、東日本大震災で被災した地域の再生過程に自主的に取り組むことを応援するものです。一方、NP0 もインターン受入団体も若者の人材育成を通して、組織や事業の課題を見つめ直す機会とします。

◆事業実施期間:2013 年 7 月 1 日~2014 年 3 月 31 日(9 ヶ月)

◆事業協力費:27 万円(月 3 万円×9 ヶ月 受入団体指導補助費として)

※インターンに対しては住友商事(株)から活動費、通勤交通費や保険等が直接支払われた

◆事業のための人員確保(理事 2 名によるサポート体制/スーパーバイザー松田理事、メンター古山理事)

◆受入れたインターン生:桜の聖母短期大学 1年生 河治さやかさん

◆主な事業の内容と目標

- (1) NPO 後方支援 PJ における「NPO法人設立・運営ガイド協働制作 PJ」のサポート
「ふくしまガイド」編集・制作や協働制作 PJ メンバーとの協議の場の補助
- (2) 復興支援活動事業への参加機会の提供と諸活動におけるサポート
- (3) 研修機会の提供—NPO への理解とインターン活動を深めるための研修を行うこと

実績:

・インターン活動時間:248 時間

・主たる活動

「ふくしまガイド」の原稿等整理作業、県内 NPO 法人活動報告書に関する資料作成等

・復興支援活動への参加(映画上映会や避難者自治会会員の集い、ごちそう満喫フェア 2013 等)

・研修:インターン研修やつなかん PJ との合同研修に参加 2回

講師:松田英明さん(企画マネジメント研究会代表)

振り返り:

・短大 1 年生が担当教官に勧められて応募した等の理由で、法人組織や NPO 活動に馴染み難そうにしていたが、インターン修了の頃には、与えられた仕事を全うしようとする意欲や姿勢も見受けられ、学生、NPO 共に大きな収穫だったと考えています。

・高校を卒業したばかりの年頃で(アルバイトの経験もなく)、欠勤や遅刻早退の連絡、月報の提出手続き、メールの送受信等、社会的なルールも伝えつつ、一緒に活動できる環境を整えるまでに、初めての長期インターンの受入だったこともあり、時間がかかりました。

3. 日本郵便(株)平成 25 年度年賀寄附金配分事業

借上げ住宅避難者のための「交流ひろば」開設と

自治会とコミュニティの支援プログラム(通称 コミュプロ)

目的:

・福島県県北地方の借上げ住宅等で避難生活を送る方々に、震災及び原発事故以前のよう な“いつもの暮らし”や心の潤いを少しでも取り戻して頂くために支援プログラムを通じて生活再建や自立に向けた後方支援を行います。

・市内に点在する借上げ(みなし仮設)住宅の方々の交流拠点づくりや、借上げ住宅自治会の支援サポート等、個々に分断されがちな借上げ住宅への避難者のコミュニティ支援を中心として支援の手が入り難い避難生活者の生活再建支援に取り組みます。

◆事業実施期間:2013年4月1日～2014年3月31日

◆事業予算 4,991,015 円/助成預り金額 4,685,000 円 →最終事業総額 4,816,655 円
(助成元返金額 174,360 円)

◆事業のための人件費確保:3名(福島事務所/常勤1名、現地スタッフ2名)

◆主な事業内容と目標

(1)交流ひろばの開設(月20日程度の継続的利用を想定)

①いつもの暮らしに戻るプログラム

・こころのケア

(毎週1～2回、月6回程度/数値目標:年間200人程度)

—絵手紙教室や地域のまちあるき、手芸などの講座開催、収蔵DVD
の上映会など

・生活再建困りごと相談

(専門家等による相談窓口の開設:毎週1回、月4回程度/数
値目標:年間120人程度)

②自治会支援プログラム

・自治会サポートセンター(マネジメントセミナー:月1回、事務局
サポートサービス:随時)

(数値目標:Mセミナー年間60人程度、事務局支援年間20件程度)

③コミュニティ支援プログラム

・借上げ住宅避難者等への集会所・会議室の開放(随時[事前予約制]週2日:月8回)

・福島大学災ボラ等との連携による支援活動の受け入れ活動(月2回)

(数値目標:交流ひろば、会議室等利用件数 年間60～65件程度、現場訪問件数 月9回程度)

④交流ひろば季節のイベント(年4回程度:他団体との連携

による観桜会や芋煮会等の開催)

(2)支援情報の収集・発信

・仮設住宅や支援団体を訪問しての取材活動(週2日:月
9日程度) ※主にひろば開放日

・「おたがいさま新聞」(拡充版)の発行(月1回程度 5,000
部発行:事業予算計上分10回)

配布エリアの拡大(伊達郡桑折町→桑折町+福島市・二本松市・本宮市等県北部)

情報収集・発信の対象(仮設住宅の避難者→仮設住宅+借上げ(みなし仮設)住宅避難者)

(3)Web情報・DB「支援情報ステーション(既設)」への情報の蓄積・追加公開



実績:

(1)交流ひろばの開設

特に、ひろばでの活動や自治会支援プログラムに対する利用や、借上げ住宅自治会等
に対するコミュニティ活動の後方支援が、計画段階で推し量ったニーズよりも少なく、

目標とした利用者人数、プログラム実施回数には至りませんでした。(ひろば利用 約 65%、自治会事務局支援 約 30%)

(2) 支援情報の収集・発信

『おたがいさま新聞』の発行(12回)及び HP「復興支援情報ステーション NEWS」に関しては、目標通りに取り組むことが出来ました。

振り返り:

・点在する住民に対する借上げ住宅自治会の連絡手段が限られており、ひろばの広報活動が充分行き届かなかったこと。また、点在する借上げ住宅から福島市中心街へ、参加のアクションを起こさせるような活動プログラムの開発が不十分だという2点が大きな反省点です。

・助成元である日本郵便(株)はこのPJに対し一定の評価をしてくださったようで、「助成金団体シンポジウム in 福島」★での事例紹介への推薦、社内助成金事業のレポートにも掲載予定となっています。

(2014年11月の公募は見送りましたが、来年は事業提案をしたいと考えます)

★報告—助成金団体シンポジウム in 福島

2014年9月6日 福島市市民活動サポートセンター・多目的ホール

主催:認定NPO法人ふくしまNPOネットワークセンター、NPO支援財団研究会(事務局(公財)助成財団センター)

テーマ:「助成金の基礎を知り、地域が生きる上手な活用を。—助成団体とつながりを持つネットワークを構築しよう」

第1部 基調講演「助成金の基礎を知る」

NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 代表理事 松原明さん

第2部 事例報告団体からの情報発信

①NPO法人市民公益活動パートナーズ×日本郵便(株)環境・社会貢献室 係長 佐藤祐之さん

「借上げ住宅避難者のための「交流ひろば」開設による自治会とコミュニティ支援プログラム」

②NPO法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会×(公財)トヨタ財団 事務局長 大野満さん

「奥尻島・阪神・淡路の教訓に学ぶ—北海道・奥尻島視察研修報告」

③雅の会・ふくしま×(公財)東邦銀行教育・文化財団 部長 山口力良さん

「第4回雅の会・ふくしま成果発表会」

第3部 全員参加の意見交換会「団体が育ち地域も生きる助成金の上手な活用」

第4部 最新の助成金情報—地域と全国

「わがまち基金」プロジェクト、福島市市民活動活性化支援事業、中央共同募金会(赤い羽根ポラサポ)

第5部 助成財団等との名刺交換交流会

日本郵便(株)年賀寄附金配分 借上げ住宅避難者のための“交流ひろば”開設による自治会とコミュニティの支援プロジェクト」主な実績			
日付	場所	活動/支援団体等 内容	参加人数
2013年 10月11日(金)	うわまち交流ひろば(パートナーズ事務所)	筆ペン教室 講師:本間美雪さん	5名
10月17日(木)	うわまち交流ひろば	映画の時間ですよ「呐喊 とっかん」	2名
10月17日(木)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「英国王のスピーチ」	3名
10月19日(金)	笹谷東部応急仮設住宅集会所	映画の時間ですよ「魔女の宅急便」	14名
10月20日(日)	無能寺	無能寺写経会	30名
10月26日(土)	うわまち交流ひろば	福島まちなか・ちよこつと散歩 旧城下町「江戸口」周辺散歩 案内人:江代正一さん	6名
10月30日(水)	うわまち交流ひろば	おやつ会議 「手みやげマップをつくろう」	6名
11月15日(金)	うわまち交流ひろば	年賀状サロン/渋染 講師:森谷純子さん	5名
11月21日(木)	うわまち交流ひろば	筆ペン教室 講師:本間美雪さん	5名
11月23日(土)	うわまち交流ひろば	福島まちなか・ちよこつと散歩 案内人:江代正一さん	14名
11月24日(日)	桑折町	桑折軽トラ市(コスモス手づくりの会)	8名
11月24日(日)	無能寺	写経会	32名
11月25日(月)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	映画の時間ですよ「たんぼぼ」	16名
11月27日(水)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「男はつらいよ あじさいの恋」	25名
12月2日(金)	うわまち交流ひろば	年賀状サロン型染 講師:森谷純子さん	5名
12月17日(火)	笹谷東部仮設	ちよこつと散歩 陣屋の杜公園、種徳美術館 案内人:佐藤善治さん(桑折町文化保存会会長)	4名
12月20日(金)	桑折町	桑折ちよこつと散歩 桑折町内探訪 案内人:佐藤善治さん(桑折町文化財保存会会長)	14名
12月21日(土)	福島市	福島まちなか・ちよこつと散歩 案内人:江代正一さん(福島郷土歴史研究者)	5名
12月24日(日)	無能寺	写経会+忘年会	32名
12月26日(木)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「東京タワー オカンとボクと、時々オトン」	21名
12月27日(金)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	映画の時間ですよ「かもめ食堂」	15名
2014年 1月19日(日)	無能寺	無能寺写経会	30名
1月23日(木)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「原子力戦争 Lost Love」	10名
1月24日(金)	笹谷東部応急仮設住宅西集会所	映画の時間ですよ「オータムインニューヨーク」	9名
2月10日(月)	南矢野目応急仮設住宅南集会所	映画の時間ですよ「男はつらいよ、寅次郎純情詩集編」	23名
2月16日(日)	無能寺	写経会	34名
2月20日(木)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「北のカナリアたち」	7名
2月26日(水)	笹谷東部応急仮設住宅東集会所	映画の時間ですよ「オペレッタ 狸御殿」	10名
3月16日(日)	無能寺	写経会	32名
3月17日(月)	南矢野目応急仮設住宅北集会所	映画の時間ですよ「男はつらいよ、寅次郎かもめ歌」	23名
3月28日(金)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「ハッピーフライト」	15名
3月28日(金)	笹谷東部応急仮設住宅西集会所	映画の時間ですよ「ハッピーフライト」	7名

映画上映会(桑折、笹谷東部、南矢野目)及び無能寺写経会(後方支援) 自主事業として活動を継続(担当:阿部美奈)			
4月14日(月)	南矢野目応急仮設住宅南集会所	映画の時間ですよ「男はつらいよ、寅次郎紙風船」	17名
4月20日(日)	無能寺	写経会	30名
4月25日(金)	笹谷東部応急仮設住宅西集会所	映画の時間ですよ「西の魔女が死んだ」	13名
4月25日(金)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「鬼平犯科帳」第1シーズン	10名
5月16日(月)	南矢野目応急仮設住宅北集会所	映画の時間ですよ「釣バカ日誌8」	22名
5月18日(日)	無能寺	写経会	30名
5月26日(月)	笹谷東部応急仮設住宅西集会所	映画の時間ですよ「黄昏 たそがれ」	15名
5月26日(月)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「鬼平犯科帳」スペシャル大川の隠居	8名
6月15日(日)	無能寺	写経会	30名
6月23日(月)	南矢野目応急仮設住宅南集会所	映画の時間ですよ喜劇「駅前飯店」	15名
6月27日(金)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「赤い夕陽の渡り鳥」	8名
6月27日(金)	笹谷東部応急仮設住宅西集会所	映画の時間ですよ「ガマの油」	11名
7月14日(月)	南矢野目応急仮設住宅南集会所	映画の時間ですよ「ALWAYS 三丁目の夕日'64」	12名
7月20日(日)	無能寺	写経会	30名
7月28日(月)	笹谷東部応急仮設住宅西集会所	映画の時間ですよ「食べて 祈って 恋をして」	9名
7月28日(月)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「駅前温泉」	7名
8月11日(月)	南矢野目応急仮設住宅南集会所	映画の時間ですよ「男はつらいよ 旅と女寅次郎」	19名
8月17日(日)	無能寺	写経会	30名
8月25日(月)	笹谷東部応急仮設住宅西集会所	映画の時間ですよ「UDON」	12名
8月25日(月)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「男はつらいよ 柴又より愛をこめて」	12名
9月8日(月)	南矢野目応急仮設住宅南集会所	映画の時間ですよ「べらんめえ芸者」	19名
9月21日(日)	無能寺	写経会	30名
9月26日(金)	笹谷東部応急仮設住宅西集会所	映画の時間ですよ「借りぐらしのアリエッティ」	13名
9月26日(金)	桑折駅前応急仮設住宅第2集会所	映画の時間ですよ「男はつらいよ 寅次郎物語」	12名

<補助金交付事業>

平成 25 年度福島県産農林水産物PR支援事業

「ふくしま応援ー美味しいプチマルシェin世田谷梅ヶ丘」

目的:福島県の食材等に対する風評被害が未だに収まらない中、首都圏の代表的な住宅地、世田谷区梅ヶ丘において、地元NPO等が復興支援の一環として開催する「プチ・マルシェ」に参加し、県産農産物及び農産加工品等の美味しさと安全性のPRを行います。

同時に、パートナーズの活動への理解と賛同を訴求しながら、寄付の募集も行います。(認定 NPO 法人取得に向けて 3,000 円×100 人以上)

- ◆事業実施期間:2013 年 10 月～2014 年 3 月 ※2013年9月に採択され、年度を超えて活動
- ◆事業費:513,000 円/補助金額 500,000 円 →事業総額 580,744 円
- ◆NPO 法人 50 カラット会議(市民活動グループ ドリカム 60)との共催
復興支援活動の一環として開催する「プチマルシェ」に、当法人が県産品を携えて参加します
- ◆事業のための人材確保:人件費は計上しない(当法人 PR、寄付募集活動も同時に行うため)
- ◆主な事業内容:主なターゲットである 50～60 代の主婦に対して、福島県産食材を用いた料理研究家によるコーディネイト料理の試食提供を行い、参加者同士や NPO との交流促進や県農産物等への理解を深め、口コミによる風評被害の払拭を目指します。
第1回 2013 年 11 月 8 日:福島の伝統の美味しさを味わう会(新米、ごはんのお供)
第2回 2013 年 12 月 6 日:福島の素材で楽しむ師走の会(川俣軍鶏、冬の果物)
第3回 2013 年 2 月 7 日:福島の冬を越す知恵を知る会(あぶくま鍋、他)

実績:

・福島県産食材を用いた試食を各回約 50 食提供。(料理コーディネイトは、NHK「きょうの料理」などで著名な高城順子先生)。都内ばかりではなく、埼玉県や神奈川県からの参加もあり、県産農林水産物の安心・安全と美味しさを広く PR することが出来ました。



・首都圏で活躍する美容研究家や編集者、マーケティング関係者など様々な職業の方が参加。中には、同窓会で県農林水産加工品を配るための注文をされる方もいて、口コミ効果が期待されます。

振り返り:

県産食材による試食会と交流会という地道なイベントではあるものの、材料や商品の手配も自ら行うことにより、農家や食品加工業者、まちなかの食品店、JA直売所等への認知度も回を重ねる度に増えています。参加者へのPRも含め、こうした試みを複数年度、積み重ねることによる効果は大きいと考えます。

2013年度下半期(2014年4月1日以降に取組みを開始した事業)

<助成事業>

1. 公益財団法人 公益法人協会 東日本大震災草の根支援組織応援基金 第1回配分

浪江のこころをつなぐ 若い語り部育成応援プロジェクト

伊達郡桑折町・桑折駅前応急仮設住宅自治会が中心となり、浪江町民自らが市民活動団体「浪江まち物語つたえ隊」を立ち上げ、浪江の民話や大震災・原発事故からの避難の物語を紙芝居として制作し、公演を通じてふるさとへの思いを後世に伝える活動に取り組んでいます。その後方支援のため、若い世代を中心とした読み手ボランティアの育成に取り組んでいます。

- ◆事業実施期間: 2014年4月～2015年2月
- ◆事業予算額:510,000円/助成金額 500,000円
- ◆事業のための人材確保:人件費は計上しない(指導団体への謝金のみ)
- ◆主な事業内容:

- (1) 紙芝居読み手ボランティア育成研修会の実施(6回)
- (2) 読み手お披露目のための発表会と交流の集いの開催
2015年1月25日予定 浪江手づくり見本市 2015も併催



実績:

- ・浪江まち物語つたえ隊をはじめ、桑折ふるさと民話の会、保原ふるさと民話の会の3つの団体との連携により、6回開催したボランティア育成研修会において、常に受講者が指導を受けることが出来ました。
- ・回を重ねる度にメンバーの意識が高くなってきています。
(来年1月の発表会に向けて、演目毎のグループが自主的に練習を開始します)



前半のふりかえり

- ・募集の際に思い描いた受講者—大学生や20代の社会人や目標人数(受講者30人、ボランティア登録15人程度)には達しませんでした。「若い」を強調し過ぎたために中高年層の女性が敬遠したこと、広報段階において拡散や期間が不十分だったこと等が要因として挙げられますが、6～7人のボランティア登録は期待出来そうです。
- ・継続した取組みに対するニーズは見込めそうですが、財源確保が大きな課題です。

2. 社会福祉法人共同募金会 赤い羽根災害ボランティア・NPO 活動サポート募金 第14次
“福島の日”を担う復興支援活動団体が一歩を踏み出すための一人立ち応援事業(略称:
あすいちPJ)

○長期に亘る復興支援活動に耐えられる組織基盤づくりを支援すること

福島の復興、地域再生には長い時間が必要であり、発災当時よりは社会環境の変化がやや落ち着いている今、NPO 法人や市民活動団体が自ら組織を整え直し、地域社会から広く共感を得ながら公益的な活動を行う開かれた組織へと変われるようサポートします。

○当法人自らも、「掘り起こして支援する」ことの出来る中間支援組織として成長すること

これまで県内外の復興支援活動団体の調査や取材等を行い、HP「復興支援情報ステーション」で紹介しながら「見つける・つなぐ」支援を行ってきたが、各団体の課題に合わせたきめ細やかなサポートを提供できる中間支援を目指してスキルアップを図ります。

◆事業実施期間: (2014年7月～2015年7月)

◆事業予算額:3,002,000円/助成金額:2,470,000円(約53万円減額)

◆事業のための人材確保:事務業務兼団体等コーディネーター1名

◆主な事業内容と目標:

(1)これからの復興支援・NPO活動に関わりたい人や

若者向けの相談会や講座の実施

○基礎講座: 10人程度×毎月1回/10回

○相談会: 2団体/日×毎月1回/日×10回

○「NPOナビ本」の制作、HPでの公開

(基礎講座、相談会等の情報やノウハウを集約)



(2)既に活動している団体における組織運営の自己点検をサポート(NPO経営ゼミナールの実施)

組織体制整備のための講座:10団体×5回

(3)草の根的に活動する組織への調査・取材等による復興支援活動団体の裾野の拡大
成果物として『復興支援情報ステーションNEWS』を創刊、発行(3～4団体/1回×10回程度)

(4)避難者自治会や避難受入地域団体が求めるニーズの掘り起こし

※成果及び振り返り:採択は8月末であり、2014年度事業として本格的に取り組み、報告します

<補助金交付事業>

平成 26 年度福島県ふくしまの恵み PR 支援事業

※事業名は変わりましたが、2012 年度に実施した福島県農林水産物 PR 支援事業と目的等は同様の事業です
「美味しいふくしま、召し上がれ in TYO&OSA」

目的:福島県産農産物への風評被害が未だ収まらない中、首都圏及び関西圏において、地元NPO法人等の協力の下、料理研究家に県産農林水産物・加工品を用いた料理のコーディネイトを依頼し、主婦層を対象に美味しい福島を味わう試食イベントを行い、食材のPRと風評被害払拭を図ります。

◆事業実施期間:2014 年 5 月～12 月(予定)

※体験ツアー(10 月)と事業報告は 2014 年度の取組みです

◆事業予算:803,000 円/補助金額 667,778 円

◆東京及び体験ツアー:NPO 法人 50 カラット会議(ドリカム 60)及び
高城順子先生(料理研究家)との協力・連携

大阪:(株)マ・ヴィ 藤原信子先生(フードコーディネーター)との協力・連携

◆事業のための人員確保:人件費は計上しない

(当法人 PR、寄付募集活動も同時に行うため)

◆主な事業内容:福島県食材を用いた料理の試食提供と対話の会 2 回(東京及び大阪)
の他、福島への体験ツアーを実施。農家や漁師など生産者から災害や復興に向ける率
直な話を聞いたり、県産食材を味わって頂く機会を創ります。

2014 年 7 月 18 日:東京での試食と対話の会「桃のテーブル」

2014 年 9 月 22 日:大阪での試食と対話の会「葡萄と梨の食卓」

2014 年 10 月 10 日～11 日:体験ツアー「福の旅」(1泊2日)

成果:7 月東京、9 月大阪で開催し、各会場 30 名近くの参加者が訪れ、福島県産農林水産物の美味しさと安心・安全を PR 出来ました。特に、関西圏は初めての試みであり、広報の効果にやや不安はあったものの、賑やかなイベントとなりました。



※振り返りは、10 月開催「福の旅」と併せて、2014 年度の事業報告とします



<委託事業>

福島県「ふくしまから はじめよう。若者ふるさと再生支援事業 相双地域」
想馬(そうま)スタンププロジェクト

目的:

東日本大震災からの復興・地域再生に取り組む地域に対し、地元の高校生がその復興・再生に向けて主体的に、かつ積極的に取り組み、その姿を県民に伝えることを通して、若者自身の自立性や社会参画の意識を高めると共に、若者による復興の加速化を図ります。

◆事業実施期間:2014年4月～2015年2月

◆委託料:1,247,281円

◆担当部局:福島県青少年・男女共生課

◆事業のための人員確保: 事業にはWSファシリテーターや実践活動アドバイザー、理事や事務局スタッフが関わるが、相双地域や福島市での活動時に謝金や日当、交通費等が経費として認められています

◆主な事業内容:

1. 実践活動のためのアイデア出しのためのワークショップ(2回以上)の実施
2. 高校生が主体となって取り組む実践活動のサポート、助言

◆PJTメンバー

◇若者(高校生):県立相馬高等学校、県立相馬東高等学校1年生約12名

※3年生が1名、WSのみに参加しました

◇担当教諭:茂木拓(相馬高)、篠木美恵子先生(相馬東高)

※両先生共に、生徒会顧問であり、美術科教師です

◇おとな(当法人理事やスタッフ)

- ・WSファシリテーター:遠藤智栄さん(地域デザイン・ラボ)
- ・実践アドバイザー:佐藤玲子さん((株)佐藤信博建築事務所)
- ・当法人理事:松田英明さん、古山郁
- ・サポートリーダー:田村裕亮さん(福島大学システム理工学類3年生)

※WS段階では、齊藤恵奈、若林夢歩さん2名の福大生も関わっていたが、相馬市への訪問(活動)や事務局打合せ等の日程確保が難しくなり、現在は田村さん1名が活動中。

実績:

1. アイデア出しのためのワークショップ

・2014年8月1日 第1回WS

地域を見つめ直そう! 実践/発信アイデアを考えよう!

・2014年8月7日 第2回WS

取り組むテーマを決めよう! プランと担当を決めよう!



2. 実践活動

実践活動準備として

- 2014年8月30日 事業計画WS第1回

実践活動で何をやる？優先順位を決めよう！

- 2014年9月15日 事業計画WS第2回

実践活動の事業計画をまとめよう、LINEスタンプをデザインしよう！

アイデア出しのためのWSを2回を行ったが、事業実施計画として煮詰める必要があったため、更にWSを2回加え、9月半ばに、高校生たちが目指す実践活動「想馬スタンププロジェクト」の目的や概要、スケジュール等が具体的になりました。

1. 目的:大震災・原発事故からの相馬の復興再生と人々の元気や頑張りを、特に県外の若者をはじめとした多くの人たちに伝えたり、体験して頂きます。

2. 概要:

①若い感性による相馬の新しいキャラクターを創り、全国の人々に相馬をアピールする
LINEクリエイターズスタンプでの発信、オリジナル切手とキャラクターピンバッジの制作

②「相馬の元気をPR! 冬のスタンプラリー」の実施

実施期間:2015年1月18日~2月15日

スタンプラリー対象施設・店舗 約60箇所(但し、まちなかグルメは自己記入形式)

※成果及び振り返り:実践活動に取り組み始めた10月以降と合わせ、2014年度事業として報告します

2013年度 事務局の記録



この1年間の福島事務所の様子について

福島事務所への来訪・取材等を列記しました。

マスコミ取材や連携団体との情報交換等が2013年度も相当件数ありました。相談業務は、個別に複数回が多く、しかも多岐に亘りました。

2013年				
12月1日	訪問	民間の中間支援研究のための取材(当法人の活動や課題、今後のNPO活動等)	(一社)ふくしま連携復興センター 理事 鎌田千瑛美さん	理事 古山郁
12月4日	訪問	復興公営住宅移行に向けた住民ニーズの調査協力の要請	(一社)ふくしま連携復興センター 理事 鎌田千瑛美さん	理事 古山郁
12月5日	訪問・取材	借上げ住宅住民コミュニティ支援—日本郵便月例ミーティングを傍聴	NHK福島支局 大嶋さん	理事 古山郁 事務局 青田、豊口、阿部
12月10日	訪問・取材	住友商事 つなかん中間インタビュー	住友商事(株)森さん、NPO法人市民社会創造ファンド 霧田さん	理事 古山郁 つなかんメンバー 川村、本間、樋山
12月13日	取材	福島オールスター百貨店・「担い手・未来トーク」(ビッグパレット)	(一社)ふくしま連携復興センター	理事 古山郁 事務局 渡辺和子
2014年				
2月10日	訪問	福島市市民活動サポートセンター運営委員会委員の要請	福島市市民部市民活動支援課 佐藤、鈴木月子さん	理事 古山郁
2月10日	訪問	「結の場」開催案内及び説明	(一社)Bridge for Fukushima 鈴木奈緒子さん	理事 古山郁
4月11日	訪問	情報交換	(一社)ふくしま連携復興センター	理事 古山郁
5月7日	取材	福島県内のNPO団体(団体概要と復興支援活動)	FM福島 face to smile	理事 古山郁
5月16日	取材	認定NPO取得のための寄付募集	福島民友新聞社 須田さん	理事 古山郁
5月20日	取材	浪江の紙芝居ボランティア募集	FMボコ	理事 古山郁
6月23日	訪問	情報交換	南相馬市市民活動サポートセンター 郡昌弘さん	理事 古山郁
6月24日	取材	認定NPO取得のための寄付募集	読売新聞社福島支局 大月さん	理事 古山郁
6月29日	訪問	ボランティア説明会	桜の聖母短期大学 大内、武田さん	理事 古山郁 事務局 阿部美奈
7月11日	訪問	ふくサボ運営委員会委員要請	福島市市民部市民活動支援課 佐藤、鈴木月子さん	理事 古山郁
7月17日	訪問	浪江のこころ通信取材・編集 意見交換	(一社)東北圏地域づくりコンソーシアム 高田篤さん	理事 古山郁
8月5日	訪問・取材	日本郵政(株)助成金事業レポート制作	日本郵政(株)	理事 古山郁
8月16日	訪問	福島県内の復興支援活動の現状について	堺市 久井さん	理事 松田英明、古山 監事 中鉢博之
9月24日	訪問	情報交換 今後の復興支援活動(団体の課題と県内NPOの動向など)	(一社)ふくしま連携復興センター 遠山賢一郎さん	理事 古山郁

10月23日	龍谷大学バザー売上金の寄付	コーディネート依頼	NPO法人うつくしまランチ 掃部郁子さん	理事 古山郁
10月26日	NPO会計(2回)	会計ソフトの使い方	NPO法人青空保育たけの子 辺見妙子さん	理事 松田英明、古山
11月19日	高齢者の傾聴、子どもたちの水泳等ボランティア活動	NPO活動	佐藤宗典さん	理事 古山郁
4月15日	NPO法人青空保育たけの子 会計相談	会計相談	青空保育たけの子 井上、辺見さん	理事 松田英明、古山
5月9日	助成金申請相談(書類の書き方)浪江まち物語つたえ隊	赤い羽根ボラサボ申請	小澤是寛さん	理事 古山郁
7月26日	NPO法人設立相談(5回)→NPO法人申請中	障がい者支援、雇用創出等	しょうがいしゃ小規模作業所 ベじわーく本内 須藤 満さん	理事 松田英明、古山
9月1日	(公益団体)法人設立相談(3回)→一般社団法人化	法人化→NPOか、一般社団か	(有)音楽社 高橋孝幸、しろくまプロジェクト 梶原邦仁	理事 松田英明、古山
9月16日	うわまち交流ひろばスペースレンタル(利用の打診～下見)	福島市ランチ開設の相談等	NPO法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会(みんなぶん) 事務局長 鶴沼さん、元岡さん	理事 古山郁

事業提案を行った助成金・補助金申請先とその結果について

2013年度後半からは復興公営住宅の入居も始まり、助成財団等の募集要項にも「新たな地域・コミュニティづくり」がテーマとして取り上げられるようになってきました。

今後は、その支援への取組みも考えながら、引き続き事業提案を行います。

11件の事業提案を行い、採択(或いは契約締結)は8件。約7割でした。

助成事業名/提案事業名	申請先	提出日	結果
平成25年度年賀寄附金配分 東日本大震災の被災者救助・予防(復興)借上げ住宅避難者のための「交流ひろば」開設による自治会とコミュニティの支援プロジェクト	日本郵便(株)総務部 環境・社会貢献室	2012年11月30日	2013年3月29日 採択
福島県産農林水産物PR支援事業(補助金交付) ふくしま応援—美味しいプチマルシェ in 世田谷梅ヶ丘	福島県県北農林事務所	2013年8月16日	2013年9月13日 採択
市民活動団体(NPO)育成・強化プロジェクト 組織力向上サポート助成 目指せ 認定NPO法人! ホップ・ステップ・ジャンプ・プロジェクト	認定NPO法人日本NPOセンター	2013年7月31日	2013年10月1日 採択
東日本大震災 草の根支援組織応援基金 「浪江のころをつなぐ 若い語り部育成」応援プロジェクト	公益財団法人 公益法人協会	2014年2月27日	2014年4月4日 採択
ふくしまの恵みPR支援事業(補助金交付) 美味しい「ふくしま」いかがでしょう! ~首都圏&関西圏での試食イベントとふくしまスタディツアーの開催~	福島県県北農林事務所	2014年4月14日	2014年5月12日
平成26年度「ふくしまから はじめよう。若者ふるさと再生支援事業」 県北地域	福島県青少年・男女共生課	2014年3月17日	2014年4月7日 不採択
平成26年度「ふくしまから はじめよう。若者ふるさと再生支援事業」 相双地域			同日 採択
東日本大震災現地NPO応援基金(特定助成) JT NPO 応援プロジェクト 東日本大震災及び東京第一原発事故からの復興支援“ふるさとを忘れない” 福島ゆかりの映画と記憶をつなぐプロジェクト	認定NPO法人日本NPOセンター	2014年4月14日	2014年6月13日 不採択
地域づくり総合支援事業(サポート事業) 福島県(県北)ゆかりの映画作品のデータベース化と映画散策マップによる コミュニティとDC(ディストネーションキャンペーン)の活性化	福島県県北地方振興局	2014年6月30日	2014年8月1日 不採択
赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業 第14次助成 (中長期) “福島のみらい”を担う復興支援活動団体が一歩踏み出すための一人立ち 応援事業	社会福祉法人中央共同募金会	2014年5月27日	2014年8月29日 採択
県北あぶくま地域着地型観光整備事業(スタンラリー実施施設等接客担当者 向けスキルアップ講座) スキルアップ講座(阿武隈もてなしゼミナール)企画提案・実施 ※いいざ かサポーターズクラブからの再委託	NPO法人いいざかサポーターズクラブ (福島県県北地方振興局)	2014年9月	2014年10月1日 契約締結

現在申請中の事業について

◆補助金交付事業

福島県地域づくり総合支援(サポート)事業[県北振興局]

飯坂温泉映画ロケ散策マップ制作による「ふくしまDC」活性化支援事業

事業実施期間:2014年11月~2015年3月

事業予算:1,715,000円/補助金希望額:1,140,000円

◆助成事業

住友商事(株) 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム 2015(Bコース「活動」)

被災地の「今」を伝える 相想(そうそう)スマイルプロジェクト

事業実施期間:2015年4月~2016年1月

事業予算:2,974,260円/助成希望額:2,940,000円

各種研修・会議等への出席・参加について

2013年度は、研修等への理事の参加や事務局スタッフの派遣が余り出来ませんでした。今後は、人材育成の観点から年間1～2回は研修機会をつくと同時に、他団体やネットワーク組織とのスタッフ間交流を図る意味でも諸会議への参加を促します。

◇主な会議への出席

2013年				
10月12日	会議(第1日目)	浪江のこころ通信」取材者情報交換会(郡山市民交流プラザ)	(一社)東北圏地域づくりコンソーシアム	理事 古山郁
10月13日	会議(第2日目)	浪江のこころ通信」取材者情報交換会(浪江町視察)		理事 古山郁
10月21日	会議	ふくふくPJ ※出席は最後	NPO法人ふくしまNPOネットワークセンター	理事 古山郁
11月1日	会議	浪江町(二本松市市民交流センター)	(一社)ふくしま連携復興センター	理事 古山郁
12月9日	会議	住友商事(株)インターンシップ受入団体説明会(ふくサポ)	住友商事(株)・NPO法人市民社会創造ファンド	理事 松田英明、古山
12月20日	会議	県けんぼく6次化ミーティング交流会第1回(県青少年会館)	福島県県北農林事務所	(講師:理事 古山) 事務局参加:阿部、豊口、青田、安田、渡辺、川村、本間、樋山
2014年				
2月19日	会議	公益法人 公益法人協会 助成金説明会	公益法人協会・ふくしま連復	理事 古山郁
2月21日	会議	県けんぼく6次化ミーティング交流会第2回(JA福島ビル会議室)	福島県県北農林事務所	理事 古山郁 事務局参加:阿部、豊口、青田、安田、川村
2月26日	会議	結の場ワークショップ(コラッセふくしま)	(一社)Bridge for Fukushima	理事 古山郁
3月9日	会議	住友商事(株)東日本再生ユースチャレンジプログラム2014 インターン報告会～河治さやかさんら(ふくサポ)	(株)住友商事、NPO法人市民社会創造ファンド、ふくしまNPOネットワークセンター	理事 松田英明、古山
3月12日	会議	(社福)福島県社会福祉協議会ボランティア推進委員会	福島県社会福祉協議会地域福祉課	理事 古山郁
4月23日	会議	ふくしま連復4月定例会	(一社)ふくしま連携復興センター	理事 古山郁
4月24日	会議	福島市男女共生参画センター運営協議会 総会	福島市男女共生参画センター	理事 古山郁
6月9日	会議	NPO法人いざかサポーターズクラブ総会(飯坂商工会)	NPO法人いざかサポーターズクラブ	理事 古山郁
6月10日	会議	紙芝居活動・連携団体ミーティング(桑折町中央公民館)	浪江まち物語つたえ隊、桑折ふるさと民話の会、保原ふるさと民話の会	理事 松田英明、古山
6月25日	会議	全国ボランティア・フェスティバル2015実行委員会(willふくしま)	福島県社会福祉協議会地域福祉課	理事 古山郁
6月29日	会議	ふくしま連復6月定例会	(一社)ふくしま連携復興センター	理事 古山郁
8月6日	会議	全国ボランティア・フェスティバル2015実行委員会(ビックパレット)	福島県社会福祉協議会地域福祉課	理事 古山郁
8月27日	会議	ふくしま連復8月定例会	(一社)ふくしま連携復興センター	理事 古山郁
8月28日	会議	ふくサポ運営委員会(福島市市民活動サポートセンター)	福島市市民部市民活動支援課	理事 古山郁

◇『おたがいさま新聞』及び『復興支援情報ステーション NEWS』発行と配布 実績

発刊日	新聞	主な配布先
2013年10月5日	おたがいさま新聞2013 10月号(通巻第18号)	伊達郡桑折町内(町内全戸、役場、公民館、郵便局、銀行、スーパー、商店等) 福島市内、二本松市、本宮市、川俣町の応急仮設住宅借上げ住宅自治会 支援活動情報提供者等、浪江町民生児童委員、相双自治会連合会、他 借上げ住宅(福島市、二本松市、相馬市、南相馬市)
11月1日	おたがいさま新聞2013 11月号(通巻第19号)	
12月20日	おたがいさま新聞2013 12-1月号(通巻第20号)	
2014年1月18日	おたがいさま新聞2014 新春特別号(通巻第21号)	
3月10日	おたがいさま新聞2014 3月号(通巻第22号)	
3月31日	おたがいさま新聞2014 4月号(通巻第23号)	
6月1日	おたがいさま新聞2014 6月号(通巻第24号)	
7月10日	おたがいさま新聞2014 7月号(通巻第25号)	
8月25日	おたがいさま新聞2014 8月号(通巻第26号)	
9月20日	おたがいさま新聞2014 9月号(通巻第27号)	
	【創刊】復興支援情報ステーションNEWS 00号	※新聞に折り込み、同時配布しています

特定非営利活動法人 市民公益活動パートナーズ
本部・福島事務所 〒960-8101 福島市上町 3-4 コマ福島ビル 1 階 9 号
(福島稲荷神社鳥居向かい)

TEL024-573-8310 FAX024-573-8319
URL <http://partners-npo.jp/> ◆ e-mail info@partners-npo.jp

2014.12.7.